

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300120		
法人名	ライフサポートNEO		
事業所名	グループホームふおれすと小城センター		
所在地	佐賀県小城市牛津町勝813-2		
自己評価作成日	令和5年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年3月13日	外部評価確定日	令和5年4月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>常勤では無いが看護師を昼夜共に多く勤務して頂いて利用者様の体調に注意して業務され状況に応じて医師に連絡を密に行っています。 ご家族様には必要に応じて密に連絡を入れコロナで面会は出来ない時期にも定期的にご家族様が来られた際などに窓越しで会える機会を設け利用者、家族共に不安や疎遠にならないように努めている。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>田園広がる静かな場所に県内に多くの事業所がありその中に「ふおれすと小城センター」が存在している。3年前事業主の交代があったが利用者はそのまま入所され安定している。管理者が大切にしている事は「異常の早期発見」と「対話の楽しさ」であり、職員は管理者の思いを理解しケアに活かされている。玄関には季節の花、椅子やベンチがあり人形が飾られ訪問者を暖かく迎えられている。事業所内には多くの絵画が飾られている。就労支援でインドネシアからの職員が配置され、利用者や職員のアイドルになり明るい雰囲気である。管理者は食事の中にインドネシアの料理の取り組みも思案中である。職員の支援で溶け込んでいる。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、理念斉唱を行い各職員が事業所の理念を把握して業務に努めてもらっている	理念はホールに掲示され、朝礼時に唱和されている。毎年利用者の為の年間目標を掲げ、話し合いながら目標を目指し、ケアに努めている。日頃から理念は意識されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も新型コロナウイルスの影響でボランティア訪問や運営推進会議もリモート等でした出来てない。	自治会に加入し回覧板で町内の情報は得られている。地域からの面会もあり、区費の集金に来所される時に話が出来ている。コロナ禍の状況を見て行事に声掛けをしたいと考えられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の影響で実践できていない。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症が施設で蔓延している際には家族様の要望を開催前に確認して反映している	コロナ禍の為メンバー揃っての会議は出来ないが、おたっしや本舗とはリモートで実施されている。書類にて行事、活動報告を家族に送付されている。メンバー構成に家族が含まれて無かったが今後メンバーの一員として参加をお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在、コロナ感染症の影響で取り組んでいない	前事業所と交代の際には相談する事もあったが現在は落ち着いて来た。中部広域連合とは連携を続け、空き情報はおたっしや本舗、ネットワークで情報交換されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の身体拘束と高齢者虐待の勉強会を実施している	事例は無い。3か月に1回適正委員会を実施されている。ホーム内で身体拘束の資料、写真を作り、気づきや意見交換を行っている。勉強会では言葉遣い、スピーチロックについて毎回指導されている。職員は身体拘束の禁止や弊害について理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1度の身体拘束と高齢者虐待の勉強会を実施している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の資料を配布している。自立支援についても利用者様に合わせ必要な自立に向けた活動を提供しながら集団生活で居場所の確保に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭説明を行いながら、ご家族様にご理解いただくように努めている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症のため外部への発信に関しては運営推進会議議事録に記載するようにしているが、ご家族様には書類を渡す際に現在の状況説明を行うようにして要望等を聞くようにしている。	コロナ禍の為面会はマスク着用し換気等感染予防しガラス越しで玄関で短時間の面会が出来ている。その際に家族の意見や要望を尋ねる事が出来ている。家族からは諸経費の値上げや風水害の避難についての意見があり、説明を行い出来る所から改善されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の施設内での会議の場を設け、意見徴収できるようにして内容を精査したうえで業務に取り入れたいり出来るようにしている。	グループ内での異動はある。職員数は登録者を含め17名と多く、看護師も多い。年間目標を掲げ物品購入や決め事は調整会議で解決されている。職員は利用者の起床時の介護についてや個人的な意見等何でも話し易い環境である。職員同志のコミュニケーションも良く働き易くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度、評価シートを作成し各職員がやりがいや向上心を損なわないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的にグループ内の会議、委員会を設置して参加できるように配慮し育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は新型コロナウイルス感染症の影響で出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様に事前に情報収集を行った後に本人様にも入居後すぐに落ち着けるように話し合いの場を設けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、仮申し込み記入の際等に家族様から情報収集を行うことで、本人様やご家族様が直面している課題を導き出し助言出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の意向に沿うように話し合いを設けている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意向に沿って介護を行い、状況に合わせお手伝い等への参加を依頼して生きがいを持てるように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の意向に沿うように話し合いを設けている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は佐賀県の新型コロナウイルス感染者が減少してきているが、県内在住の方でも玄関先で硝子越しでの10分程度の面会のみで県外の方に関しては原則、面会禁止にしています。	これまでは遠方の家族の面会もあった。現在は面会制限の中で短時間の面会が行われ、家族は利用者の顔色や様子が分かり安心されている。家族からの電話の取次ぎもあり連絡を取り合っている。2ヶ月に1回美容室からの訪問があり楽しみにされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールテーブルの席の配置を随時変更し利用者同士の関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者は現在、いないがその都度連絡相談等があれば行いたいと考えています。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様には定期的に現在の状況を報告して本人様が孤立しないように配慮を行っている。	利用者の担当職員がおり、日々の様子や行事の写真にメッセージを記入するなど、毎月家族に報告され家族はその様子に喜ばれている。レクリエーションの時や風呂の時間にはゆっくりと話が出来、その中で思わぬ表情やつぶやき、動作で思いを知る事が出来、記録に残しケアプランに活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各職員には入所された方の基本情報を確認すると共に、ケアカンファレンスを定期定期に行うことで本人様の思いを共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態の気づきがあった場合には、申し送りノートを入力して各職員に確認してもらいながら共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活動作を踏まえ、ご家族様には積極的に電話連絡で伝えるようにし、ケアカンファレンスの際にプランに反映するように心がけ家族、本人がここに来て良かったと思えるように努めている。	月1回のモニタリングの際には利用者、家族の要望を取り入れ、医師、ケアマネジャーも参加し担当者の申し送りノートを参考に作成している。期間中体調の変化が見られた際には話し合い、プランの見直しをし家族にも報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の会議で利用者様の状態をケアマネジャーに報告することで介護計画書に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や本人様の思いをくみ取るようにして、状況に応じた対応が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じて外出の機会を設け、馴染みのある場所に行っていたいただくことで心身の安定に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望を優先し、各病院との関わりを大切に考え、本人様が安心できるように努めている。	受診は利用者、家族の希望どおりとしている。往診は2週間に1回、年1回健診も行われている。他科、歯科の受診は家族の協力で行われている。薬の点検も行われている。職員に看護師が多く家族も安心で心強い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師出勤時には変化ある利用者様の状態を伝え状況に応じて医師に連絡を行うが不在時には管理者より医師に連絡するケースを設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院された際には管理者を通じて出来る限り情報提供を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には早い段階での終末期のあり方について定期的にご相談させていただき、施設での看取り希望の際にはかかりつけ医に助言を仰ぎながら対応している。	入居時に重度化や終末期の説明が行われ、同意を得ている。これまでに看取りの経験もある。指針の作成もあり、勉強会も行われている。容態変化の際にはその都度医師、家族と話われ利用者、家族にあった看取りになるように支援されている。エンゼルケアも行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での緊急対応マニュアルを配布しているが定期的には勉強会は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し状況に応じた対応が出来るようにしている。近隣住民の方にも災害支援の依頼をしている。	年2回の訓練の内1回は消防署立会いで行われている。利用者の参加はあるが住民の参加は無い。地形的に水害の危険性が高く、避難場所への経路や所要時間も把握している。避難場所は家族にも伝えている。飲料水、おむつ等備蓄の準備も出来ている。近くにアパートもあり、いざと言う時は住民の参加も必要と思われるので、訓練参加を期待したい。前回の大雨の教訓で早めの避難の判断をすることになっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に応じた言葉かけを実施し、時には方言を交えたりと利用者様によって対応をかえ取り組んでいる。	法人で接遇の研修が行われ、言葉遣い、大声、声のトーン等のアドバイスをされている。会話の際には方言を使用する事もあり、盛り上がる事もある。伝わり易く、分かり易い言葉に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	状況に応じて利用者様自身が思いを話せるような場を作る。又、訴えがあった際には傾聴しながら本人様の意思を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の思いや体調に合わせ柔軟な対応を心がけて業務を遂行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様、ご家族様の希望や生活習慣に応じた対応をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に生活レクリエーション活動として食事のつぎ分け、洗濯物たたみ等を依頼することで残存能力を大事にして対応している。	料理の時間を少なくし、余分の時間は利用者のために使用したいと主食のみホームで準備し他は外注である。料理の手伝いはないが、つぎ分けや、食後の食器拭き等出来る方もある。食事は利用者の食べ易い形態にし、完食されている。誕生会には利用者の希望に沿って、職員が手作りしている。介助食の方には職員が傍に付き声掛けしながら見守りの中の食事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に応じて食事形態を変更したり、食事量が減少している利用者には言葉かけを行いながら摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方には順番の声かけを行い介助を要する方には口腔スポンジを使用して介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様に合わせて日中はショーツ、夜間のみリハビリパンツ着用と併用して使用いただくような工夫をし、一人ひとりにあった対応をしている。	排泄チェック表を参考にタイミングで誘導する等自立出来るよう工夫され効果も出ている。残存機能を使い衣類の上げ下げの出来る方があり見守りされている。日中も半数の方はトイレに立ち失敗は無い。排便について医師の指導でコントロールされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操への参加を促し運動を実施してもらえるように働きかけをしている。それ以外にも季節に応じて外の散歩に行けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中に入浴を予定しているが利用者様が応じられない場合や気分不良の声があった際には午後に回したり翌日に変更したりと対応をしている。	週2回の入浴である。体調や気分に合わせて、順番の決まりは無い。自分で衣類の着脱の出来る方、体を洗う方も有り残存機能が活かされている。風呂は会話が出来る時間であり、気持ち良く楽しんでもらいたい。状況により、手浴、足浴も行われる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様によって日中を居室で過ごされたりホール内のソファで静養出来たりと決めごとを設けず過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の処方箋を別ファイルに綴じ変更があった際には申し送りノートに記入対応しており各自が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動の中で各利用者様が笑顔で過ごして頂けるように四季のイベント等を取り入れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により施設周辺の散歩など出来る限り行うようにして担当職員が遠方など計画した際にはご家族様に連絡相談をするようにしている。	年間行事はあるがコロナ禍の為に日程等合わない事もあり十分な外出はない。気分や体調のいい日は希望により事業所の周りを散歩され、季節を感じながら外気浴、日光浴を楽しまれる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の中にはご家族様から現金を少額であるが持っている方も居る。2か月に1度の散髪代を徴収する以外で使う機会は現在は無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望された際には居室内で電話をかけられるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内では季節感を感じていただけるように飾りつけやイベント等の写真を掲示したり会話の中で四季を感じてもらおうようにしている。	リビングは天井が高く広く、明るい。お雛様を飾り、利用者の作品も掲示され季節を感じる事が出来る。日当たりのいい場所にソファがあり日光浴を兼ねゆっくり過ごされている。掃除は職員が行い、臭いも感じられない。台所からは利用者の様子が観察出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あまり出来ていないが思い思いにホール内のソファー等で談話が出来るように言葉かけを行いながら過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた物を準備してもらい、安心して生活してもらえるように配慮し必要に応じてご家族様に連絡を行っている。	入口には大きく名前が掲げられ、目印に花が添えてある。廊下は障害物も無く運動も出来る。居室にはダンス、椅子、机、写真やギターの持ち込みもある。衣類の収納は自分で出来る方もある。家具は自分の過ごし易いように配置され、整理整頓出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かし利用者様に応じてお手伝いや共に協力して作品を作ったりと制作をするようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない